

福島被害は三重苦

福島を忘れない、全国シンポジウム

7月21・22日の2日間、「第2回福島を忘れない、全国シンポジウム」に参加してきました。
主催は原発に反対する議員や団体や活動家などが構成する同実行委員会。会場は、福島駅西口から徒歩2分、福島グリーンパレス。参加者は地元福島をスタートし全国各地から、市民や議員が155名とのことでした。

初日は、**現地からの報告**が続きます。

被災地の現状と課題について
川俣町議会議員・菅野清一氏
放射線被害と埼玉に避難した訳
前双葉町長・井戸川克隆氏

避難者の現状と原告団長として
榎葉町宝鏡寺住職・早川篤雄氏
原発被害訴訟と国・東電の対応について



全国から150人余りが参加した「第2回福島を忘れない・全国シンポジウム」=7月21日。福島グリーンパレス

今週の活動から



福島駅東口再開発事業で作られた子どもの夢を育む施設「こむこむ」とNHK福島を見学。「八重の桜」の打掛の前で。この施設は電源立地交付金で作られました。(上：釘丸久子議員)



朝8時過ぎに本厚木を出て福島駅には11時過ぎに着きました。(下：栗山香代子議員)

弁護士・福島原発被害弁護団
共同代表・鈴木堯博氏

原発被害から3年半
―復興の現局面
福島大学名誉教授・真木實彦氏

原発について、東日本大震災以前からずっと反対している人も、事故後から反対に変わった人も、今回のシンポジウムで共通して話されたのは、「原発をなくす」ということ。国も東電も嘘をついてばかりで本当のことを伝ええないという不信が根強くあります。

鈴木堯博氏「原発公害をなくすことは原発をなくすこと。裁判所で国民世論で包囲していく。重要な裁判だと裁判官に認識させることだ」。

真木實彦氏「権力側はこれだけの被害を目にしながら無視できる。我々は団結を強めながら権力に対峙していく。時代を画する新しい局面であり、長い闘いになる。粘り強く続けていかなければならない」。



九州電力川内原発再稼働に反対する垂れ幕を掲げて報告

現地見学、原発20キロ圏へ
2日目は朝7時に集合して、バス3台で出発です。
現地の市会議員が同乗して、説明をしてくれました。

まず、道の駅よつくら港。東日本大震災で地盤が50cm沈下。福島の海水浴場は2か所しか開かれていないそうです。ここ小名浜。施設内にある「ふくまる」は、震災後にロック歌手らの寄付金があったて作られた子どもの施設。親子連れの姿がありました。

次に、久之浜。津波で流され、残ったのは小さい神社のみ。ここは商店がたくさんあったけれど、震災で出火し、消失。現在は防災緑地工事中です。

道路から見える、公営住宅の建築工事現場。それに、除染作業に携わる6000人のためのプレハブ住宅が並んでいます。



広野町。東京電力の火力発電所の煙突が3本見えていました。津波で行方不明の親族を捜そうとしたら、原発事故での避難で捜すことができなかった。原発災害さえなかったら助けられた命がたぶんあったのに。地震と津波に加え、原発事故の三重の災害。

榎葉町。広い平地に除染パックがたくさん、たくさん置いてありました。袋の耐用年数は黒が3年、緑が5年と言われています。